

園芸療法十周年記念誌の発刊にあたり

校長 平田富士男

兵庫県立淡路景観園芸学校における園芸療法課程は、2002年9月に、県知事認定の園芸療法士を養成する1年間の全寮制課程として、わが国随一の教育水準を持つ内容で開講しました。

2002年といえば、今から17年余り前となる、1995年に発生した阪神・淡路大震災の復興にも一段落がついた時期でした。

あの大震災の教訓として私たちが学んだものは、人々を襲う過酷な状況の中で、被災者の心を癒し、人に明日への希望を与えてくれる命ある植物の存在の重要性であり、そのような植物に代表される自然との共生をいかに実現するか、ということでした。

幸いにも、全国から多くのご支援をいただきながら復興を遂げた兵庫県では、その実現のひとつの手法として園芸療法という新たな分野に着目し、その教育課程を確立しました。

そして、それまでの多くのご支援へのお返しとして、“花とみどりで人を癒す”園芸療法士を育て、全国へその輪を広げていこう、と現在まで125名の兵庫県知事認定園芸療法士を養成し、全国各地で園芸療法の展開を図ってまいりました。現在、本校を巣立った園芸療法士は、医療、福祉のみならず、教育、造園・園芸など幅広い分野で活躍しています。

そのようななか、昨年3月、阪神・淡路大震災以上の被害をもたらす東日本大震災が起きました。今なお、多くの被災者の皆さんが仮設住宅などの不自由な生活を強いられていらっしゃいます。そのようななかでも、花や緑は被災者の皆さんの心を癒し、復興への希望と勇気づけのきっかけとなっています。

このように園芸療法への関心、期待がますます高まるなか、今年度からは新たに通学制課程も開講するなど、園芸療法を学びたいと思われるより多くの方々の期待に応えられるよう、その充実を図っております。

このような時期に、開講10年を迎えるにあたり、記念式典および国際シンポジウムの開催により、これまでの園芸療法に関する実践・研究の成果を広く内外に発信するとともに、海外の園芸療法専門家や関連団体との連携を深めるために、園芸療法実践・研究発表会と海外専門家による特別講義を開催することにし、あわせてそれらの概要を集録して園芸療法十周年記念誌として発刊いたしました。

ここに収録された成果は、園芸療法という新しい分野を療法として、そして学問として確立するための挑戦的な取り組みの結果です。分野の歴史自体がまだ新しいため、研究論文としての完成度は他の分野に比べれば、まだまだ未熟なところはあると思いますが、新しいものを打ち立てていこうとする発表者それぞれの強い気概はひしひしと感じられるものと思います。

この記念誌が皆様の園芸療法に対する理解を深め、そして園芸療法の発展の一助になれば幸いです。

平成25年3月